

ハマフエフキの採卵

・近藤 忍・中村博幸

1. 目的

ハマフエフキの養殖用及び放流用種苗の生産に必要な受精卵を得ること。

2. 材料と方法

平成 23 年 3 月 30 日に 20 尾の親魚を海面生簀から陸揚げして、屋内の 50kl 水槽 1 面に収容した。親魚は、平成 18 年から 19 年に購入した天然魚で、雌雄比は不明であった。

餌は、毎日与えた。主にマダイ用配合餌料を与え、週 1 回は、生餌(イカ)を与えた。換水率は 4 ~ 5 回転 / 日程度とし、飼育水中の銅イオン濃度が 40ppb 程度になるように銅イオン発生装置を適宜作動させて白点病やハダムシ寄生を予防した。

飼育期間中の水温は、20.2 から 28.1 °C で推移し、平均水温は、23.7 °C であった(図 1)。採卵期間中は、飼育水温を 22 ~ 23 °C に保つよう努めた。特に、4 月 5 日から 5 月 6 日の間は、飼育水を加温調節した。

産出された卵は、表層水をサイホンで抜き取り、採卵槽に設置した採卵ネット(網地の目合い 0.72mm、大きさ約 60cm × 約 70cm × 約 80cm)で濾して採取した。サイホンには内径 38mm のホースに塩化ビニールパイプを取り付けたものを 4 本用いた。

総採卵数は、採卵後 1kl アルテミアふ化槽に卵を収容して重量法で求めた。また、浮上卵を 0.2g 内外採取して軽く水分を取り除いて計量したのち、卵数を計数して 1g あたりの卵数を求めた。

屋内水槽での飼育は、6 月 20 日まで行い、その後海面生け簀へ沖出した。

3. 結果及び考察

産卵は、屋内水槽で飼育を開始して 9 日後の 4 月 8 日から飼育を終了する 6 月 20 日まで、ほぼ毎日みられた。1 日当たりの産卵量は、93 ~ 5,135g の範囲であった。

得られた卵は、3 回次にわたり種苗生産に供した。1 回次は、4 月 14 日と翌 15 日に合わせて 5,649g の卵を得た。1kl 水槽で浮上卵と沈下卵に分離した結果、浮上卵は 5,364g、沈下卵は 285g であった。うち、浮上卵 3,225g (804 万粒)を種苗生産に使用した。2 回次は、5 月 2 日に 4,424g の卵を得た。浮上卵は 4,096g で、沈下卵は 328g であった。うち、浮上卵 3,150g (787 万粒)を種苗生産に使用した。3 回次は、5 月 18 日に 5,866g の卵を得た。浮上卵は 5,744g で、沈下卵は 122g であった。うち、浮上卵 3,159g(789 万粒)を種苗生産に使用した。

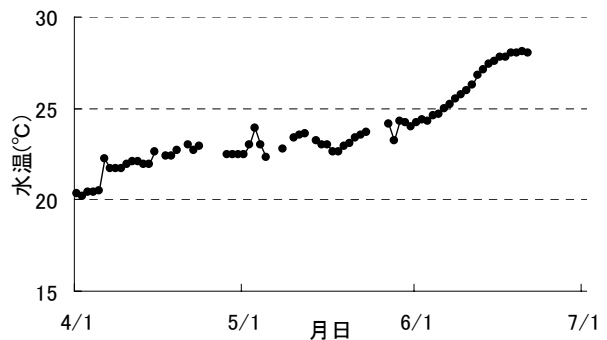


図1 飼育水温